地域にかかわる子どもを育てる総合的な学習の時間
～「見通す・振り返る」活動を通して～

要約

中央教育審議会初等中等分科会においても、社会、地域、家庭の変化により、子どもたちの親や地域の大人、異年齢の子どもたち同士の交流の場の減少が指摘されている。地域の人々との付き合いが希薄化している社会において、身近な地域社会の課題の解決に地域の一員として主体的、協同的にかかわり、地域社会の発展に貢献しようとする意識や態度を育むことが必要とされている。

本学級の子どもたちは、地域の主要産業である農業に対して、担い手の減少といった課題や発展させるための農家の工夫や願いについては一般的な知識として学んでいる。また、親族が野菜農家であり、農業生産にかかわりのある児童も多く、地域の野菜に関心をもっている児童も多い。

これまでの総合的な学習の時間の学習において、教師の支援のもと、自分の課題に沿って調べ活動を行い、集めた情報を思考ツールで整理・分析し、自分なりにまとめる学習をしてきた。しかし、地域の対象に働きかけるときに何をどのようにして情報収集をしていけばいいのか分からず、見通しをもって活動に取り組んでいるという姿はあまり見られない。また、自分たちが行ってきた活動のよさを実感することができず、対象に対する見方や考え方を十分に高めることができていない。そこで、本研究では、「課題設定」の段階で「見通す活動」、「まとめ・表現」の段階で「振り返る活動」を設定し、地域にかかわる子どもを育てることにした。そのため、以下の３点に重点を置いて取り組んだ。

（１）教材化の工夫

地域のひと・もの・ことを課題性、多様性、本質性の３点から教材化する。

（２）「見通す・振り返る」活動を位置付けた学習過程の工夫

「であう」「さぐる」「ふかめる」「ひろげる」の４つの学習過程を設定する。さらに、各過程において対象への見方や考え方を高めるために、「課題設定」の段階で、活動の見通しを可視化する場を設定すること、「まとめ・表現」の段階で、自分たちの活動を「成果と過程、成長」の視点から振り返る場を設定する。

（３）「課題設定」の段階と「まとめ・表現」の段階における「見通す・振り返る」活動の工夫

活動	工夫
見通す活動（視覚化）	・スケジュール化
振り返る活動（成果、過程、成長）	・成果と過程の振り返り ・成果と成長の振り返り

その結果、以下のような成果（○）と課題（●）を得た。

○地域の方と繰り返し一緒に活動する中で、地域のよいところをさらに広げようとするなど、「地域」にかかわろうとする児童の姿が見られた。

○「見通す・振り返る」活動を繰り返し行ったことは、解決すべき課題が明らかになったり、対象への見方を高めたり、自己の成長を実感したりする上で有効であった。

●見通す活動における対象に応じたスケジュールの付加修正の仕方

●振り返る活動におけるチームとしての成果と個人の成長の関連付けの在り方

キーワード：見通す活動、振り返る活動、視覚化、成果・過程・成長

１　主題設定の理由

（１）社会の要請から

人々のつながりの希薄さに孤独感や不安を感じることが多くなっている現代社会において、地域のよさに気付き、地域に対しての誇りと愛着を育む教育活動を行うことが強く求められている。中央教育審議会初等中等教育分科会においても、社会、地域、家庭の変化により、子どもたちの親や地域の大人、異年齢の子どもたち同士の交流の場の減少が指摘されている。地域の人々との付き合いが希薄化している社会において、身近な地域社会の課題の解決に、地域の一員として主体的、協同的にかかわり、地域社会の発展に貢献しようとする意識や態度を育むことが必要とされている。こうした現状の中で、地域のひと、もの、ことに主体的に働きかけながら地域にかかわる子どもを育てる本研究は意義深いと考える。

（２）指導上の課題から

６月に行った事前アンケートの結果から、地域の対象に働きかけるとき、活動に見通しをもって取り組んでいると答えた子どもは全体の 56％であり、自分から主体的にかかわっていく態度は十分に育っていない。

さらに、学んだことを日常の生活に活かそうとしていると答えた子どもは 62％で、熱心に活動に取り組み、納得のいくまで調べてはいるものの学んだことが生活への活用にまでつながっていない実態がみられる。

これは、課題意識はあるが、何をどのようにして情報収集をしていけばいいのか分からず、言われたことのみをすればいいという意識で活動に取り組んでいることが一因であると考える。また、自分たちが行ってきた活動のよさを十分実感させることができず、活動ありきの単元構成になっていたことも大きくかかわっていると考える。

そこで、本研究においては、「課題設定」の段階で、活動の見通しを可視化する場を設定すること、「まとめ・表現」の段階で、自分たちの活動を「成果と過程、成長」の視点から振り返る場を設定していく。このことは、見通しをもって地域にかかわったり、自分たちの活動の意義を実感したりすることにつながり、地域にかかわる子どもを育てる上で意義深いと考える。

２　主題の意味

（１）地域にかかわる子どもとは

本実践研究での地域とは、子どもが日常生活の中で行動している生活圏のことであり、子どもが直接かかわることができるひと・もの・ことのことである。子どもは、それらの地域の対象に対して、はじめは自分の意思とは関係なく、呼びかけに応じて参加するような一方的な働きかけを行う。そして、繰り返しかかわっていく中で、もっと調べたい、知りたいという自分の意図をもった働きかけへと高まっていく。さらに、目的をもって働きかけていくことで、自分の生活とのかかわりに気付き、日常的に働きかけていくことができるようになる。

つまり、「地域にかかわる子ども」とは、地域のひと・もの・ことに関心をもち、日常的に進んで働きかけ、自らつながりをつくっていこうとする子どもであると考える。そこで、第５学年における「地域にかかわる子ども」の姿を、以下のように考える。

○　「大堰野菜の魅力をＰＲする。」という課題をもち、野菜生産に取り組む方の思いを追及したり、共感的にとらえ、その価値を広げていこうとする子ども。
○　野菜選択、土づくり、栽培方法について、見学やインタビューを通して情報を集め、比較や関連付けを行いながら、地域の文化について考える子ども。
○　大堰野菜の魅力の発信やかかわる人々に関心をもち、友達と協同して意欲的に栽培活動やＰＲ活動に取り組んだり、「地域のひと」と繰り返しかかわろうとする子ども。
○　「大堰野菜の PR」を通して、地域の方の思いに気付くとともに、その活動をやり遂げた自分に対する満足感を味わったり、今後、地域の一員として自分にできることで地域にかかわろうとする子ども。

（２）見通す・振り返る活動とは

①見通す活動とは

本研究における見通す活動とは、子どもが自ら課題意識をもち、その意識が連続発展していくために、「何のために（目的)」「何を（内容)」「どのように（方法)」行っていくのかを視覚化し、子ども自らの意思で決定していく活動のことである。

②振り返る活動とは

振り返る活動とは、「成果と過程」、「成果と成長」を関連させながら、学習活動や自分の考え、変容をまとめたり表現したりすることで、自らの学びへの手ごたえを感じたり、次への課題を明らかにしたりする活動のことである。

ここでいう「成果」とは、学習活動を通して得られた結果や他者からの反応、活動後の自分の思いのことである。また「過程」とは、４つの学習過程それぞれにある「探究の過程」のことである。さらに「成長」とは、児童が自ら活動前後の気持ちや態度を比較することで実感する、自己の変容のことである。

活動	目的	内容	方法
見通す活動	活動の具体化	・　集めた情報を、時系列で整理する活動	・　グループ単位での付箋を用いたスケジュール化によって活動の流れを視覚化する活動
振り返る活動	活動の価値付け	・　「成果・過程及び成長」を関連付けたり、活動前後の思いを比較したりする活動	・　「成果と過程」について交流し、共通点や相違点を見出す活動 ・　「成果と成長」について交流し、これからの自己の在り方を見出す活動

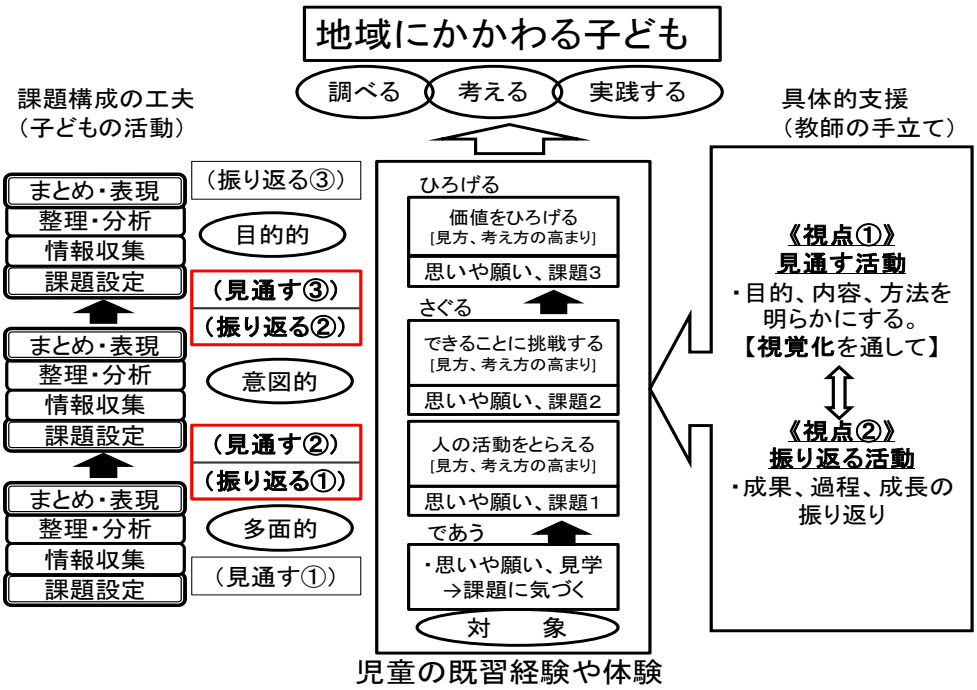
３　研究の目標

総合的な学習の時間において、地域にかかわる子どもを育てるために、「見通す・振り返る」活動のあり方を究明する。

4　研究の仮説

総合的な学習の時間における「課題設定」の段階に「視覚化による見通す活動」を、「まとめ・表現」の段階に「成果、過程及び成長を視点とした振り返る活動」を取り入れることで、子どもがより明確な課題意識をもって地域にかかわることができるであろう。

5　研究の構想図



6　研究計画の概要

（１）　検証の対象　　大刀洗町立大堰小学校　　研究対象学級　　５年生　１６名

（２）　検証の内容・方法

①教材化の工夫

1	生活に密着しており、子どもが自ら課題を見出すことができるもの（課題性）
2	身近に存在しており、繰り返しかかわることができるもの（多様性）
3	価値を実感し、見方や考え方を高めることができるもの（本質性）

大堰校区のもの・ことを支え、魅力を発信する人

課題性	多様性	本質性
大堰のひとものことの魅力をPRするという課題を連続的・発展的に見出すことができる。	大堰校区の農業の特徴から、地域の人と何度も繰り返しかかわることができる。	大堰校区の農業を支えている人の思いや願いをとらえ、見方・考え方を高めることができる。

②「見通す・振り返る」活動を位置付けた学習過程の工夫

「であう」「さぐる」「ふかめる」「ひろげる」の４つの学習過程を設定する。さらに、対象への見方や考え方を高めるために、「課題設定」の段階で見通す活動を、「まとめ・表現」の段階で振り返る活動を位置付ける。

学習過程	であう	さぐる	ふかめる	ひろげる
ねらい	大堰校区の農業を活性化している人の存在を知る。	大堰校区のよさを活かした野菜作りについて知り、活動計画を立てることができる。	大堰野菜のよさ、野菜作りに携わる人々の思いや願いを明らかにする。	大堰野菜の魅力をPRする活動を通して、大堰のよさ他に広げる。
活動構成	課題設定 おいしかぁ～便の活動に協力して大堰野菜の魅力をＰＲしよう。 大堰で農業に従事する人（花田さん）との出会い	情報収集 大堰の野菜作りのよさと方法をさぐる。 整理分析 野菜作りをスケジュール化し、野菜作りに取り組む。 まとめ表現 大堰野菜の魅力を取り入れているかを振り返る。 見通す ①　振り返る① 課題設定 大堰野菜の魅力をさらに取り入れよう。 見通す②	情報収集 自分たちの野菜作りの成果と問題点をさぐる。 整理分析 明らかになった成果と問題点を考える。 まとめ表現 野菜隊ごとに野菜作りへの思いをまとめ報告する。 振り返る②	課題設定 大堰野菜の魅力をＰＲしよう。 見通す ③ 情報収集 大堰野菜の魅力を伝えるＰＲの方法を探り実行する。 整理分析 アンケートから成果と過程、成長の視点で整理する。 まとめ表現 地域の方の願いから、自分の生き方について考える。 振り返る③

【表１　「見通す・振り返る」活動を位置付けた学習過程の工夫】

③「課題設定」段階と「まとめ・表現」段階における「見通す・振り返る」活動の工夫

活動	工夫
見通す活動（視覚化）	・スケジュール化
振り返る活動（成果、過程、成長）	・成果と過程の振り返り ・成果と成長の振り返り

（３）研究の計画

月	研究内容	月	研究内容
5 月	理論研究	10 月	実証及びデータ収集・分析
6 月	理論研究・アンケート作成	11 月	仮説の見直し・実証及びデータ分析
7 月	実態調査の結果分析・教材研究	12 月	データ分析・まとめ
8 月	教材研究・指導案作成・審議	1 月	研究のまとめ
9 月	指導案作成・審議	2 月	研究報告

７　研究の実際

（１）であう段階

【ねらい】

大堰野菜の魅力を広める方々に関心をもち、「おいしかぁ～便」の方と一緒に大堰野菜の魅力をＰＲするという課題をつかむことができる。

アロットメントの佐田さん・おいしかぁ～便の花田さんと出会う活動

大刀洗町で耕作地の活性化に取り組むアロットメントやふるさと納税のお礼品として、大堰野菜の魅力を広げるために取り組んでいる「おいしかぁ～便」の存在に気付かせるために、社会科と関連させながら地域の耕作地の現状を調べる活動を行った。そこで、花田さんと出会い「おいしかぁ～便」の取り組みを知り、花田さんから、「ぜひ一緒に、おいしかぁ～便の取り組みをしてほしい。」という依頼をしてもらった。ここから、「おいしかぁ～便」の活動の中で、自分たちにもできそうなことを考え、大堰野菜の魅力を PR するために一緒に活動していくという課題をつかませた。

（２）さぐる段階

【ねらい】

ＰＲ活動に向けて、自分たちが作った野菜を「おいしかぁ～便」に一緒に入れてもらうためにはどのようにしたらよいかを考えるために、地域の方々にインタビューをしたり、「見通し」を活用したりしながら野菜作りに取り組むことができる。

大堰野菜の魅力をさぐる活動

おいしかぁ～便の活動取材を通して、自分たちでも大堰野菜を栽培し、その野菜を使ってＰＲ活動を行うことに決まった。その際、アロットメントの佐田さんの畑を使いながら、花田さんのこだわりである有機肥料無農薬の方法を取り入れた栽培を行うことにした。栽培する野菜は、目的性（大堰をＰＲすることにふさわしいかどうか）と実現性（自分たちにもできそうか）という二つの視点から、座標軸に整理しながら決定した。その後、野菜ごとに野菜隊を結成し、野菜や栽培方法についてインターネットや本で調べたり、インタビューをして情報を集めた。

○見通す活動①

野菜隊ごとに集めた情報は、今後の活動を見通すことができるように、時系列で整理する活動を行った。栽培活動からＰＲ活動までの間にしていくことを明確化するために、流れをスケジュール化し、視覚的に捉えることができるようにした。A 児は、「すること」を書く黄色の付箋に「水やりをする」「追肥をする」と書き、「質問」を書く青色の付箋に「水はどのくらいやるのか」と記していった。学習後の感想に A 児は、「種まきや苗植えのやり方が分かりました。いろいろな人に教えて頂いて手伝ってもらったのでもっと聞いて、おいしい野菜に育てたいです。」と意欲を書いていた。付箋を使用したことは、ＧＴの助言や野菜の状況によって、事前に立てた見通しを付加修正していた。

【考察】

スケジュールを立てた後は、「質問」の内容も細かく考えたり、「質問の数」も増加したりしていった。集めた情報をスケジュール化したことは、より具体的に見通しをもつことにつながり、地域にかかわろうとする意欲を高める上で有効であったと考える。

（３）ふかめる段階

【ねらい】

大堰をＰＲしていくのにふさわしい野菜になっているかどうかを捉え、花田さんの野菜作りにかける思いや野菜とのかかわりをこれからの活動に取り入れることができる。

大堰野菜の魅力に対する意識をふかめる活動

○ふり返る活動①（成果と過程のふり返り）

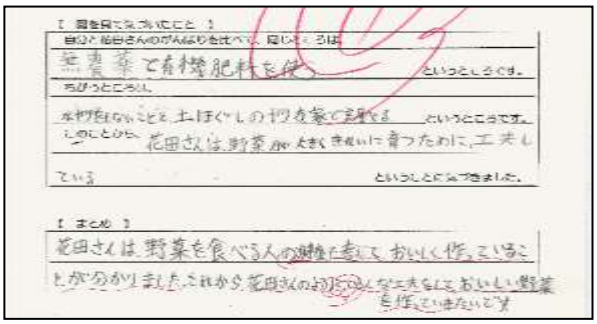
まず、これまでの野菜作りで自分たちが努力してきたことを野菜隊ごとにふり返った。次に、花田さんの畑に見学に行き、土の柔らかさの違いや、野菜の生育状況の違いといった自分たちの畑との違いを見つけた。最後に、自分たちの努力と花田さんの努力を比較することで、花田さんの野菜のような大堰野菜の魅力をＰＲできる野菜をつくるためにこれから自分たちが取入れていかなければならないことを明らかにした。

【写真１　努力点の比較後の発表】

まず、あらかじめ付箋に書いていた自分たちの努力点と取材を通して明らかとなった花田さんの努力点を、ベン図を使って共通点と相違点に分けて整理した。Ａ児は、この活動から、「花田さんは、家でも野菜づくりについて最新の情報を調べていること」に気付き、自分も同じようにしていきたいと記述していた。また他にも、「花田さんは、葉っぱの裏までていねいに様子を見ている細やかさ」に気付き、大堰野菜の魅力の一つとして考えを深めることができていた。また、大堰野菜や野菜作りにかける思いを綴った手紙を読み上げ、花田さんのがんばりに込められた「食べる相手に対する思い」についても捉えていった。

○見通す活動②

振り返る活動①で明らかになった花田さんの「細かいところまでていねいに確認する」「食べる人の健康も考えて野をつくる」などの野菜作りに対する思いや熱意をこれからの自分たちの野菜作りに取り入れるために野菜隊ごとスケジュールの付加修正を行っていった。


【 まとめ 】
花田さんは、野菜を食べる人の健康を考えて、おいしく作っていることが分かりました。これから、花田さんのように工夫をしておいしい野菜を作っていきたいです。

【資料１　Ａ児の見通す活動②の記述】

○ふり返る活動②（成果と成長の振り返り）

土づくりから野菜作りまでの活動を振り返り、野菜作りの成果と自分の成長を明らかにして、中間報告会を行った。まず、これまでの学びの中から、特に全校子どもに伝えたいものを考えた。その中で、大堰野菜の魅力は、野菜作りに取り組む方々の「努力」や「工夫」「愛情」「思い」によって支えられていることを取り入れたいという意見が出された。また、自分たちもその一員として頑張っていることとこれから大堰野菜の魅力をＰＲしていきたいことを一人ひとり考え、発表していった。

【写真２　中間報告会の様子】

【考察】

ふり返る活動①と見通す活動②を野菜作りに取り組んでいる最中に取り入れたことは、自分たち本位な野菜ではなく、より本物の大堰野菜に近づく上で有効であった。また、花田さんからの手紙を紹介したことは、花田さんの「食べる相手に対する思い」に気付くことができ、これからの野菜作りに大切にすることを明らかにすることができた。

また、中間報告会を行ったことは、ＰＲ活動に向けて大堰野菜の魅力を改めて確認し、決意をもってＰＲ活動に取り組む意欲を高める上で、有効であった。特に、お世話になっているＧＴの方をはじめ、地域の方々にも自分たちの取り組みを知ってもらったり、応援のメッセージをいただいたことで PR 活動に向けての自信につながったと考える。

（４）ひろげる段階

【ねらい】

これまで活動してきた自分たちの思いや、一緒に活動をしてきた方々の思いを取り入れたＰＲ方法を考え、福岡県内外に向けて発信することで、今後、地域の一員として自分にできることで地域にかかわろうとする態度を身につけることができる。

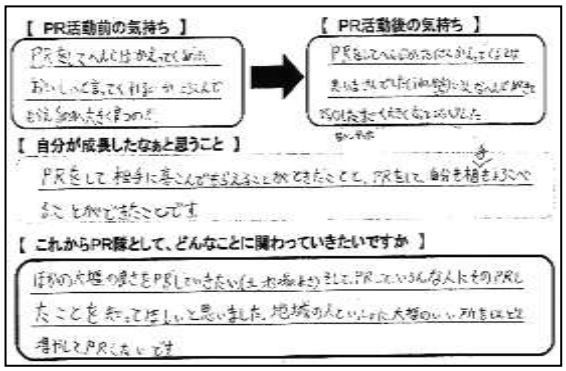
大堰野菜の魅力をひろげる活動

○見通す活動③

まず、どのようなＰＲ方法があるかについて調べ、その中で一番大堰野菜の魅力や自分たちの思いが伝わるＰＲ方法を選択していった。その際、おいしかぁ～便の方がどのような工夫をされているのかを聞きに行ったり、４Ｈクラブのお兄さんに助言をいただいたりした。その結果、PR 活動を４回（おいしかぁ～便３回、地域への PR１回）実施し、野菜のイチオシポイントを載せた紹介文を書いたり、野菜作りに取り組む様子の写真を同封することにした。また、PR をした相手がどのような気持ちをもったのか知りたいという思いから、アンケートを同封することにした。次に、ＰＲする時期に合わせて、出荷準備やＰＲの準備ができるように野菜隊ごとにスケジュールを立てた。その後、収穫時期や袋詰めの仕方など、野菜の生育状況に応じて、具体的に花田さんに尋ねる時間を設定し、野菜隊ごとにスケジュールを付加修正していった。

○ふり返る活動③（成果と成長のふり返り）

ＰＲ活動をする前の意識と後の意識の変容から自分が成長したと思うところを明らかにし、これから自分がどのように「地域」とかかわっていきたいかを考えた。その際、まず、ＰＲ活動による相手からの返事（成果）を読む時間を設定し、ＰＲで相手に伝わった内容と、返事に含まれている相手の思いや願いを捉えていった。次に、個人でＰＲ①～③で自分が行ったこととその時の気持ちをワークシートに整理し、ＰＲ活動に対する自分の気持ちの変容を捉え、ＰＲ活動を通して自分自身が成長したことをまとめていった。その後、ＰＲをするためには、地域の様々な方とのかかわりがあったことに気づかせた。最後に、「大堰よかとこＰＲ隊」としてこれから自分自身が大切にしていき



【資料２　Ａ児の振り返り活動③の記述】

たいことを考えていった。A児は、PR活動前、自分たちの野菜に対して「おいしいと言ってもらえるか」「アンケートの返事が返ってくるのか」不安だったが、PR の反応がたくさんの返ってきて、相手が喜んでくれたことを実感することができた。

振り返る活動③の後、「地域の人と一緒に大堰のいいところを広げて、どんどん PR したい」と地域へのかかわりを意欲的に深めていきたいという思いを強くすることができた。

【写真３　振り返る活動③の板書】

【考察】

「相手からの返事（成果）」と「自分の行ったことや思い」をＰＲごとに整理しながらふり返りを行ったことは、自分自身が成長した点を明らかにする上で有効であった。また、その成長のためには地域の様々な方とのかかわりや支えがあったことを想起させたことは、自分と地域のつながりを実感させる上で有効であったと考える。

８　研究のまとめと今後の課題

（１）子どもの姿から

資料３は、A児の学習後のふり返りである。これを見ると、大堰野菜をＰＲするために、自分たちが努力してきたことと大堰野菜の良さを伝えようとしている意欲、そして、受け取った相手のことを意識することの大切さに気づくことができている。さらに、野菜作りからＰＲ活動にかかわったくださった相手が喜んでくれたことで自分もうれしい気持ちになるということにも気づくことができている。また、地域の方にたくさん尋ねたり、様々な試行錯誤をしながら野菜作りに挑戦する中で、その楽しさや大変さを実感することができている。その実感があったからこそ、送った相手からの返事や反応に対して驚き、心からうれしい気持ちをもつことができている。また、「野菜の他にも、大堰のいい所があると思うので、見つけてＰＲしていきたい。」というように、地域の魅力がまだ他にもあることを感じており、地域への見方をさらに広げていこうとする意欲へとつなげることができている。

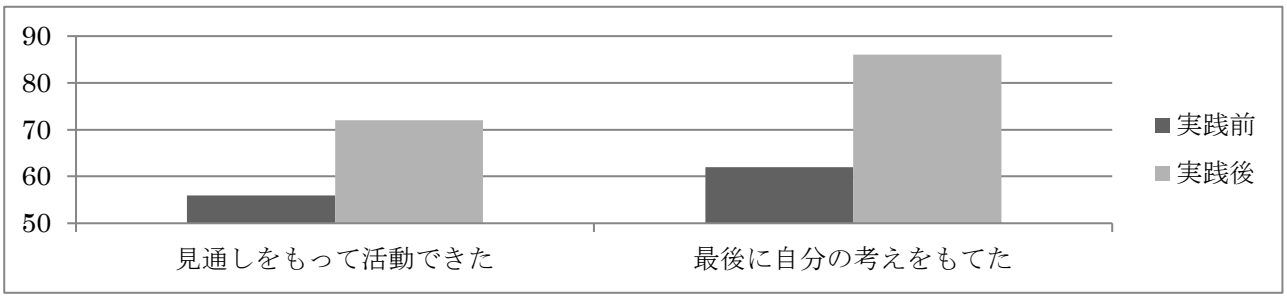
私は、PR活動をして、野菜を自分達が育てたということをPRして大堰の野菜について伝えることと、PRをした相手の人も自分も喜ぶことができたので、うれしかったです。もっと野菜を育ててPRしたくなりました。最初は、野菜を9種類もり、ばに育てれるのかと、大きくなりすぎたり大きさは大丈夫なのか、虫に食べられて野菜がぼうぼうになるのかと思ったりもしました。白菜が小さいときが一番大変でした。毎日学校がおわった後休み時間に重い水をバケツに入れて5ッ畑に行きました。おいしかぁ～便で野菜を送らせてもらった後、返事の手紙写真がたくさん返ってきたのでびっくりして、うれしかったです。野菜のほかにも、大堰のいい所があると思うので、みつけてPRしたいです。

【資料３　A児の事後の感想】

また、事前と事後のアンケートを比較すると、「地域の人に自分から進んで話しかけたり、活動したりすることはできていましたか。」という項目で、できていると答えた子どもが、６人から１２人に増加している。このことから、地域の方々やおいしかぁ～便の方々と積極的にかかわることに抵抗感がなくなり、学んだことを地域内外にＰＲする楽しさを味わ

うことができているといえる。また、地域の魅力をＰＲすることは、地域の方やＰＲした相手も喜ばせることができ、さらには自己を高めていくことにもつながるという見方をもつことができたと考える。これは、子どもが「地域とかかわることの良さ」を実感し、これからの「地域と自分とのかかわり」を考える上で、有効であると考える。

（２）「見通す・振り返る」活動の工夫から



【資料４　事前・事後アンケートの結果】

事前と事後のアンケートの結果を比較すると、「見通しをもって活動している」と答えた子どもが、５６％から７２％に増加している。その理由を見てみると、「全体の学習計画を自分たちで考えたから」という項目で１８ポイント増加をしている。このことから、子どもは、見通しをもちながら活動に取り組んでいたことが分かる。

集めた情報を自分たちで相談しながらスケジュールという形に視覚的に整理したことは、より子どもが主体的に活動する上で有効的であったと考える。また、見通しを立てる中で、GT に尋ねたいことが明白となり、地域の方々とのかかわりも濃いものになっていった。

また、「これまでの総合的な学習の時間で、テーマについて調べ、最後には「これが分かった」と自分の考えを持つことができましたか。」という質問に対しても、できたと答えた子どもは、２４ポイント増加している。このことから、達成感を十分に味わうことができていなかった子どもも授業後には、これまで以上に達成感を味わうことができたことが分かる。振り返り活動の中で、単にしたことだけを振り返るのではなく、成果と共に過程と自分の成長とを関連させながら振り返ることは、達成感を味わったり、これからの自己の生き方につなげる上で、有効であったと考える。

【成果と課題】

○　地域の方と繰り返し一緒に活動する中で、地域のよいところをさらに広げようとするなど、地域にかかわろうとする子どもの姿が見られた。

○　「見通す・振り返る」活動を繰り返し行ったことは、解決すべき課題が明らかになったり、対象への見方を高めたり、自己の成長を実感したりする上で有効であった。

●　見通す活動における対象に応じたスケジュールの付加修正の仕方

●　振り返る活動におけるチームとしての成果と個人の成長の関連付けの在り方

《引用・参考文献》

・文部科学省平成２０年　小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編　東洋敢出版社
・佐藤真　編著　各教科等での「見通し・振り返り」学習活動の充実　教育開発研究所